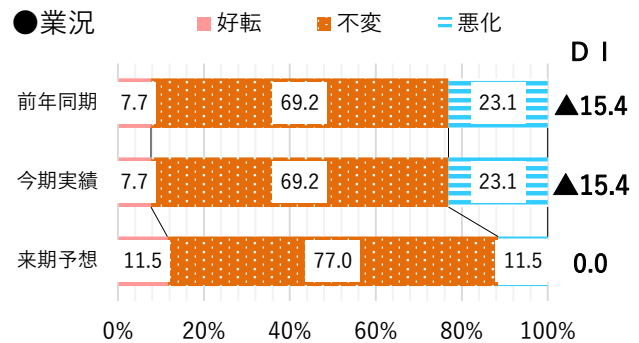


建設業

業況、売上、採算

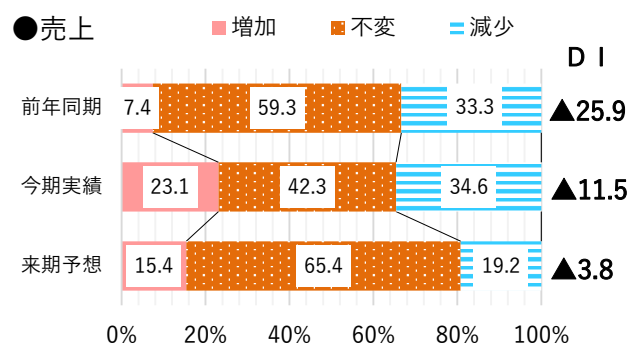
今期（2022.1～3）の業況判断DIは▲15.4で、前年同期(2021.1～3)と比べ横ばいとなりました。

来期（2022.4～6）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



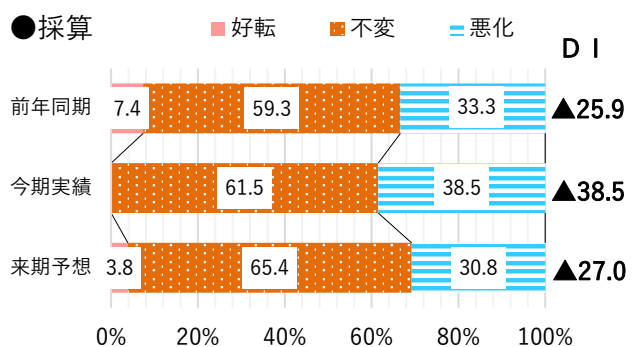
今期の売上高DIは▲11.5で、前年同期と比べ14.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

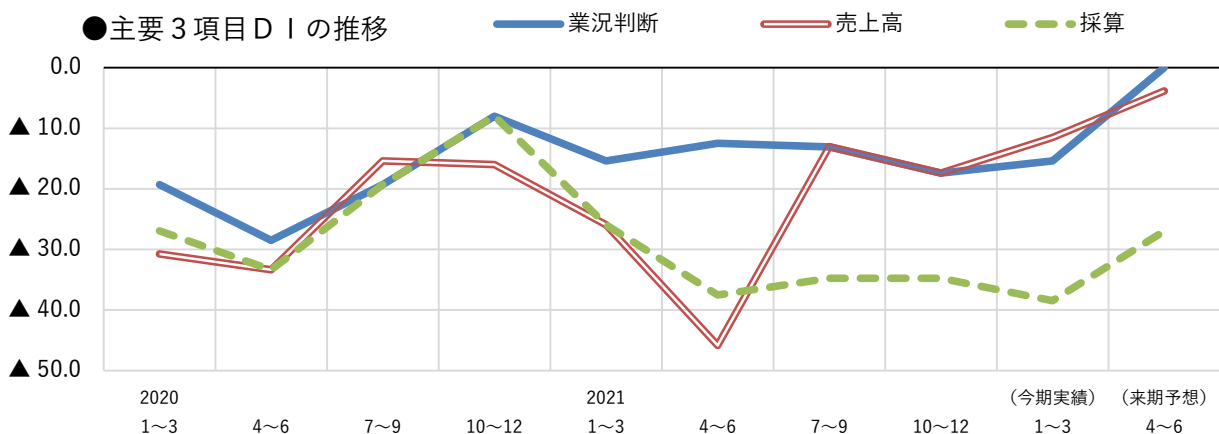


今期の採算DIは▲38.5で、前年同期と比べ12.6ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



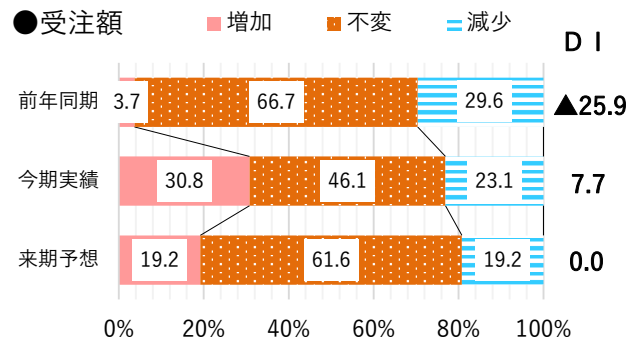
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

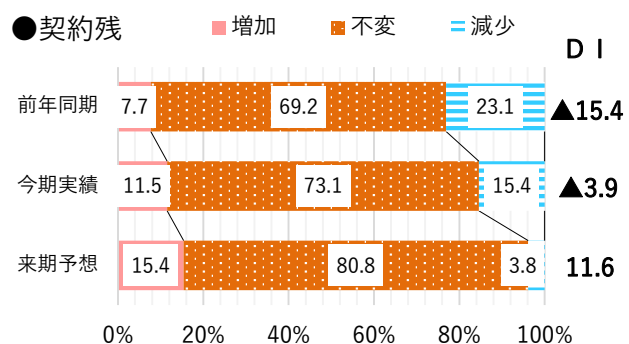
今期の受注額DIは7.7で、前年同期と比べ33.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、受注額の増加傾向が弱まると予想しています。



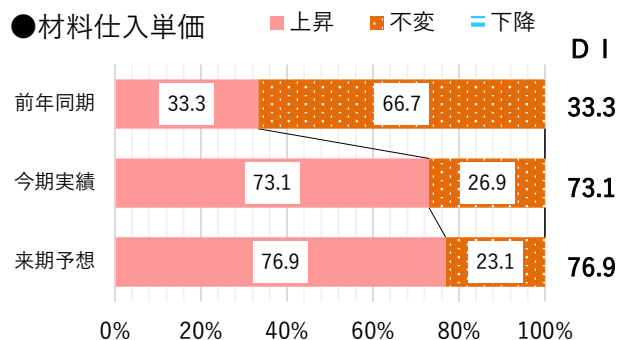
今期の契約残DIは▲3.9で、前年同期と比べ11.5ポイント上昇しました。

来期は、契約残がプラスに転じると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは73.1で、前年同期と比べ39.8ポイントと大幅に上昇しました。

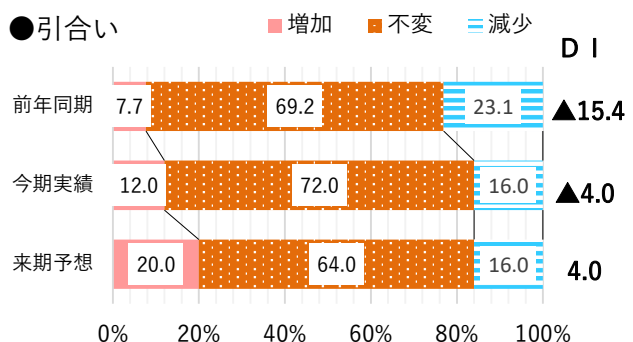
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲4.0で、前年同期と比べ11.4ポイント上昇しました。

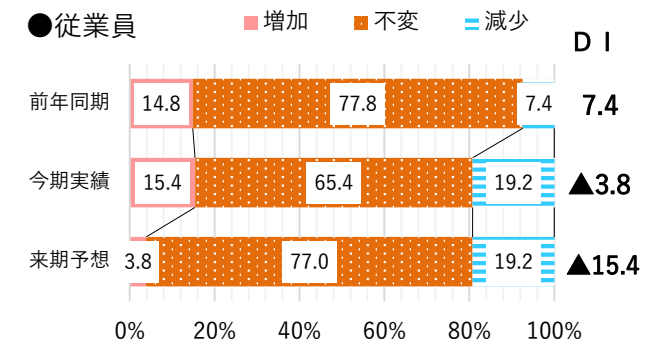
来期は、引合いがプラスに転じると予想しています。



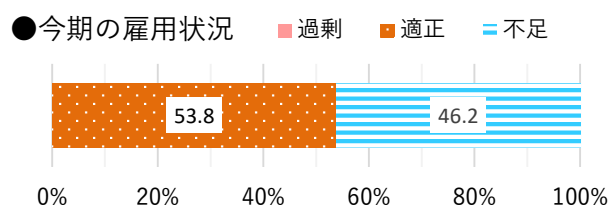
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.8で、前年同期と比べ11.2ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が強まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は53.8%、不足していると回答した企業の割合は46.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、建設業全体の42.3%を占めています。

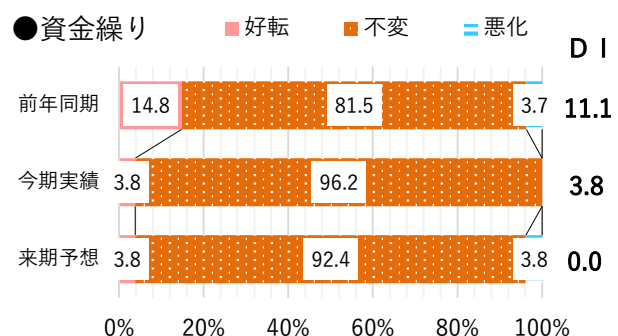
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

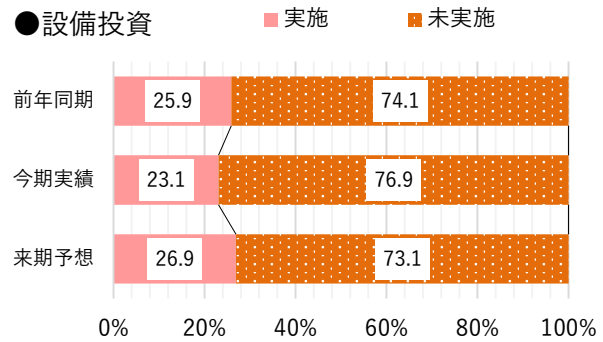
今期の資金繰りDIは3.8で、前年同期と比べ7.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



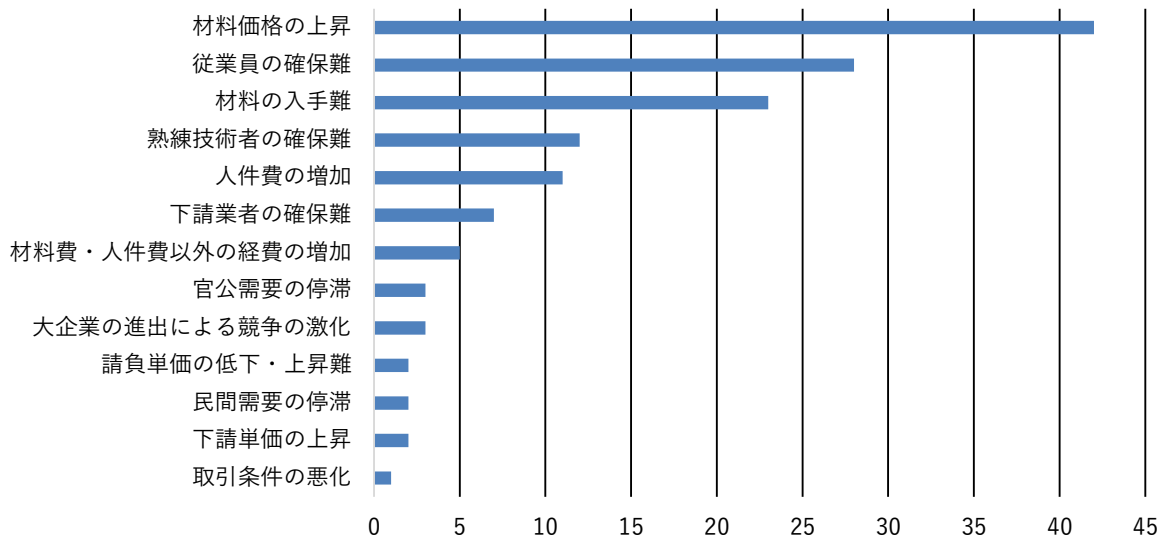
設備投資を実施した企業の割合は23.1%で、前年同期と比べ2.8%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建物」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.9%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「材料の入手難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上と受注件数は増加したが、材料が手に入らないことによる工期の延長や、材料価格の上昇により、利益率が悪化した。人材不足なので、今後は雇用にも力を入れたい。（一般土木工事業）
- 自社のブランディングと、SDGsを意識した経営を心掛けたい。（一般土木工事業）
- 木材の価格と流通量が安定せず、全事業部門に影響が生じた。（一般土木工事業）
- 仕入単価が上昇し、採算が悪化した。（一般土木工事業）
- 従業員が不足している。（一般土木工事業）
- 年度当初から続く受注不足により、売上が減少した。利益率は変わらない。（一般管工事業）
- 仕入単価上昇の影響と、コロナ禍による機材の入手難の影響で完成工事額が伸び悩んだ。（設備工事業）
- コロナ禍によって元請けの仕事の減少、中断、延期が生じ、完成工事額が減少した。（職別工事業）
- ガラス、ポリカーボネート、アクリルの仕入単価が4～8%上昇した。（職別工事業）
- 材料仕入単価と燃料単価の上昇が続いている。（職別工事業）
- 製品や部品の納期が分からないため、工事等の契約ができない。（電気通信・信号設置工事業）
- 少しずつ好転している。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 仕入単価の上昇が続くものの、受注の増加も見込める。（一般土木工事業）

- 材料価格が落ち着くまで、見通しが立たない。（一般土木工事業）
- 公共事業の動向に注目している。（一般土木工事業）
- 春季受注は好調を見込む。（一般土木工事業）
- 引合いは順調なので、期待が持てる。材料の値上げによる利益率の低下が懸念される。（一般管工事業）
- アルミサッシの材料仕入単価が、8～10%上昇すると思われる。（職別工事業）
- 仕入単価の上昇がこのまま続くと、収支の悪化傾向が強まる。（職別工事業）
- 経験者の入社予定があり、好転が見込まれる。（電気工事業）
- 人材確保難、仕入単価の上昇、公共事業の週休2日制推進への対応に苦勞する。（造園業）